

突然、偶然、それとも必然

村田 勝 敬

■ プロローグ

ゆずの曲“雨のち晴レルヤ”の歌詞に「突然、偶然、それとも必然」があり、この微妙な言い回しに首を傾げた（単なる語呂合わせなのか?）。さて、私が埼玉県内の某市役所の嘱託産業医をしていた頃、ある部署で結核患者が一名発生した。そうになると、家族とともに同じ部屋の職員にも結核感染者がいないかどうか心配になる。そこで隣接する東京都清瀬市にある結核研究所で検査を受けて貰うことにした。すると、結核研究所の医師から電話がかかり、「こんなに沢山の職員を何故一度に検査に来させるのか」と詰問された。私は「職員に結核患者が出ており、同一職場の他の人にさらなる結核感染があると困るのでお願いしました」と返答した。その医師は「患者が1名であれば“偶然”で済むが、二人以上の患者が同じ職場から出れば“事件”として扱われる!」と脅し文句を吐いて電話を切られた。

■ 病の起源

健康であった人が、頭痛を“突然”訴えて転倒し、救急車で脳神経外科病院に運ばれる。頭部CT検査の施行後に、医師がフィルム画面の中央近くにある白い影を指差しながら「脳出血です」と家族に告げる。しかしながら、脳内の出血部位から血液の塊を取り除く手術が脳外科医の手で施されている間に、患者

家族から「定期健診で高血圧が指摘されており、職場ストレスも多く、ヘビースモーカーでした」、さらに「父親も同じ病気で亡くなった」と聞くと、脳卒中の発症も単なる“偶然”という言葉だけでは済まされない。

以前、「病の起源」シリーズというNHKスペシャル番組があり、癌、心筋梗塞、脳卒中などが放映された。700万年前に人類が誕生し、その進化の途上で人類が背負ってきた宿命の中に病の起源があるという趣旨であった。例えば、脳卒中の多発部位はレンズ核線条体動脈周辺だという。この動脈から分枝する小動脈辺りに微小動脈瘤ができ易く、その破裂または閉塞によって脳出血や脳梗塞（これらを脳卒中と呼ぶ）が発症する。これは、ヒトが進化の過程で手足を器用に操るようになり、それらを司る大脳運動野に多くの酸素・栄養を送るための毛細血管が増生し、しかも血流増加も加わり、微小動脈瘤ができ易くなったことに由来する。これに現代人の不摂生病と言われる糖尿病・高脂血症や高血圧症が加わると、脳卒中を発症する確率は“必然”的に高くなる。

■ 男子力の低下?

時を遡ること1992年、デンマークのSkakkebæk博士らのグループはヒトの精子数減少に関する衝撃的な研究成果を英国医学雑誌(BMJ)に発表した。20



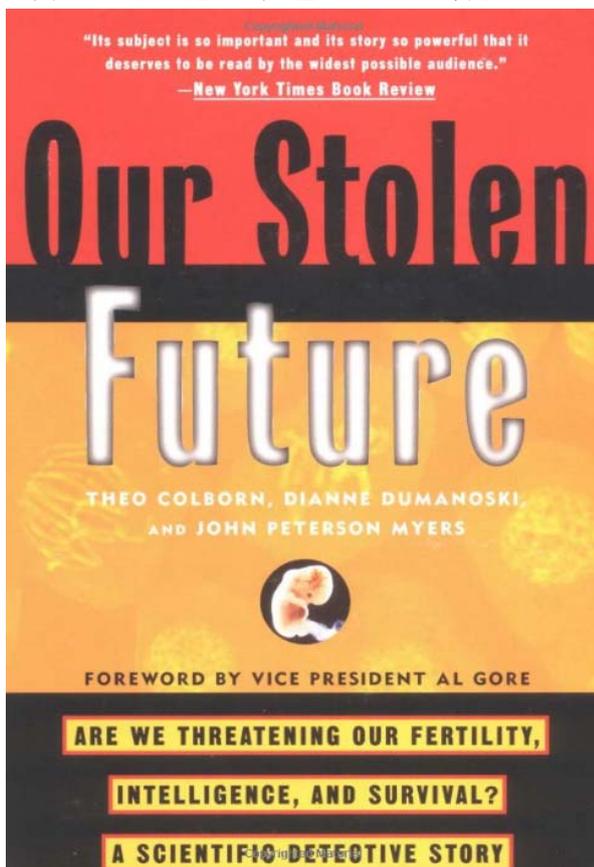
柱を支えられる逞しい男子になれ (Christiansborg Slot in Copenhagen)

カ国の男性約 15,000 人を文献的に調査すると、1940 年に 113×10^6 /ml であった成人精液中の平均精子数が 1990 年には 66×10^6 /ml に有意に減少し、精液量も 3.40 ml から 2.75 ml に減少しているとの結果であった。この原因として、“エストロゲン様活性”物質の可能性を彼らは指摘した。同様の結果はフランスやイギリスでも示された。また精子濃度に関して、米国では 1 年に 1.5% 減少し、欧州諸国では同じく 3.1% 減少していると、後続研究は報告した。

世の関心がエストロゲン様活性（～内分泌攪乱）物質に向けられるようになったのはシーア・コルボーン他著『奪われし未来 (*Our Stolen Future*)』が 1996 年に出版されてからである。それ以後、内分泌攪乱物質による精巣腫瘍、尿道下裂、精巣下降不全などの男性生殖器の発生異常や男性不妊が盛んに議論されるようになった。そして、この一環としてダイオキシン、ポリ塩化ビフェニール、殺虫剤 DDT、ビスフェノール A、トリブチルスズなどの化学物質の生殖毒性があちこちの研究機関で調べられた。

■ 転換の発想

ところで、デンマークと言えば、オランダと同様に乳製品が脳裏に浮かぶ。チーズやヨーグルトなどの原料である牛乳には女性ホルモンが含まれており



(以前の「女と男」を参照), したがって乳製品を多量に摂取し続けると、過剰な女性ホルモンにより男子の女性化が進むことは想像に難くない。一方、欧州共同体は成長促進を目的としてホルモン作用を有する物質を牛に使用することを禁じており、この原則に照らして米国・カナダ産牛肉の輸入を禁止しているという政治的背景がある。これらから帰納的推理をすると、Skakkebak 博士らはデンマークの乳製品由来の女性ホルモンについて熟知しており、それを隠匿するために“エストロゲン様活性”物質という言葉を用いたのではないかと勘ぐってみたいくなる。

■ エピローグ

若い男女の出会いは突然である。その後、街角や学内で (例え偶然であれ) 何度か出会うと運命じみた感情を抱くようになる。そして和合し、また離散する。世人の色恋沙汰の多くは、学生時代に微生物学の授業中に教わった「初恋の味は忘れ難し」ではなく、この「突然」、「偶然」、「必然」の挟間で飽きもせず営まれる。尤も、教師は“水疱瘡などのウイルスに一度感染すれば終生免疫を獲得し、以後罹らないで済む”の比喩として話されたのだが…。

自然界における地震、雷、突風等の襲来も突然である。しかるに、戦後日本の大地震の代名詞である阪神淡路大震災と東日本大震災は、政権を長期間担っていた党が在野に転じている間に発生した。この事実を、多くの人々は“偶然の一致”と片付けるであろう。否、結核研究所の医師の言葉を借りると、2度続いたので“事件”となる。少なくとも三度同様の事が起これば、偶然ではなく、蓋然性ととともにその必然性について真剣に考えなくてはならない!